

# 伊太利とこころぐ (四)

瀧川規 一

「フアシスト黨は何を實施するや」フ黨が標榜する「國家統一」なるものは餘りに簡單にして且つまた空漠である。政權を掌握した後のフ黨はこの簡單なる標語の下に何を施政上に實現せんとするか。政界安定の英國から發足し佛蘭西を過ぎ獨乙を經、瑞西を縦横に馳驅した現旅客にとつては伊國に足を踏入れてこんな疑問が起る。抑も何れの國の政黨を問はず主義政綱は堂々と發表するもその實蹟と比較する時殆ど大同小異である。而して瀕々として交代する政黨政治は一善をもつて一善に換えその結果として後に遺すものは累積の禍である。普選自由主義の議會に於ては議會及び議員に直接間接の關係を有する者が隱密の利益を得、爲めに爾餘大多數の國民は利益を阻害されることが屢ある。人間の行動は意識的な行動によつて判斷されるので

あるが、これに比較して全く比較のとり得ざる程に廣大なる無意識界がある。世には大衆のこの無意識界を巧に利用する政治家主義者が居る政治家等の唱ふる自由なるものは必竟するに彼等の私慾を滿たす自由であり手段であつて終極の目的ではないことがある。

彼等の多數は國家及び國民に對して責任感を持たない。時の政府は利用すべきものであるとの觀念を財閥は抱いてゐる。何人も平等自由に取扱ふ可きものなりとの彼等の主張はよいが何事も根底に觸れず適切に處理し得ない。

彼等はデモクラチツクな感情でデモクラチツクな政治とを混同してゐる。政治的なデモクラシイと人間的なデモクラシイとを混同してゐるが爲めに社會に存在する種々なる機能を俊嚴に辨別し得ない。自由主義の政治が持續される結

果は財閥が實行權を左右し大衆は普選の美名に夢みつゝ投票するも國家の實行機關とは殆ど無關係であると云つてもよい程な結果を見ることがある。爲めに大衆の有する立法制肘權なるものが實際行政の跡を見る時に全然空言であることを發見することもある。フ黨は斯る普選自由主義には勿論反對である。何れの國家にも自己の利益を増進し自己の位置を向上せしめるのが即ち同家の進歩なりと即解する少數の連中が存在してゐる。こんな連中にはフ黨は反對である。然らばフ黨は如何なることをなさんとするや。

試にフ黨に對する惡口を聞くならば第一に反動的政治運動なりと云ふ。第二に保守的主義を迫る政黨であると云ひ、第三に權力第一主義の政黨であると云ふ。こんな外面的な評言に向向頓着しない處にフ黨の眞價がある可きである。何れの政黨にせよ政權を掌握する時は前代の政權掌握黨に對して反動的ならざるものは無い。保守的政治家は組織的勞働及び共產主義社會主義が産業界政治家に割込むことを欲しないので

ある。然るにフ黨は保守黨とは全く反し勞働及び機能をもつて社會の根底となさんとすると云ふ。然しながらフ黨の意味する勞働はプロの意味する勞働ではない。プロは勞資二階級のみによつて社會が成立するものであるかの如く考へてゐる。勞資が對抗し争闘を續けることによつて國家は活力を維持するとプロ主義者は考へてゐる。フ黨は斯かる争闘的觀念を一掃することを主張してゐる。社會には幾多の爾餘の階級がある。これ等の階級が互に「國家國民」を第一主義として互に協調することによつて一國が國家的存在を認めらる可きであるとフ主義は云ふ。

プロの主張する勞働獨占にも反對し産業國營にも反對するのがフ主義である。プロをプロとして認めないがプロの實際の勞働價値を認めるとフ黨は云ふ。また社會主義に對してもフ黨はその主義を破らずして主義者の從來とつて來た手段に反對するのだと云ふ。然らばフ主義の夢想する社會は如何なるものか。

フ主義の夢想する社會は勞働を基礎とする社

會である。然しながらそのうちには從來の同業組合も認める。手によらざる勞働も認める。階級的競争を止めて人間の材能の競争を奨励する。彼等はこれを機能的階級と呼んでゐる。代議制を認めるにしても機能を代表する代議制である。從來の政黨組織は凡ゆる型凡ゆる階級を網羅する國家全部を代表せずして私利私害を表徴する。争派團に過ぎないから傳統的な政黨政治を廢棄すると云ふ。政府を組織するに當つても政黨以外の有能の士をも容れると云ふ。機能を代表する議會政治を作り國家第一主義の原理に基いて秩序あり力あり多數派も少數派も代表されるやうにすると云ふ。フ主義の理想は在來の國家組織を一變するにありとすれば前途に幾多の難關が横はることは出發の當初より明なことである。フ主義は社會黨と云はず共產黨と云はずまた保守黨自由黨若くは勞働組合を論せず何れの主義にも超越し凡ての主義理論の長處を包擁して國家第一主義の許に統一せんと欲する。こんな理論丈けを聞かば至極尤なやうでもあり伊國の如

伊太利ところぐ

き廢退紛亂の極に達した國家を收拾するには將に然かる可き方法なりと何人も一應は首肯するのであるが、さて實際社會に存在する複雑なる問題の處理に際して理論に正適する處置をテキハキととり得るや否や何人も疑問を抱くのである。この疑問に對してフ主義は「力」を主張する。理想の實現には力が必要である。力なき理想は空想に止まるのみならず幾多の艱難を押し切る爲めには力を充分に行使すべき獨裁政治を必要とする。さりさて獨裁政治は偉人を得て始めてなす可きであり初代に偉人を得たりとも次代に必ずしも偉人を得るとは限らない。従つて獨裁政治は紛亂の社會を整頓せしめるに必要ではあるが永續性のものではない。現時のムソリニ獨裁は一時的のものであつて永久に續く可きものではない。これ位のことばフ黨も組織の最初から認めて居たのである。

昨年(一九二九年)の末にムソリニが歐州の新聞記者に洩らしたと傳へられるのが事實ならば今日伊國は獨裁政治に代る可き機能政治の理想

を實現し得る域に進んで居り、各機能に應じて  
樞機を處理し得る準備が整ひ、夫々の人物の顔  
觸も揃つたので、ムソリニは何時隱退しても心  
配が要らなくなつてゐると云ふ。

如何なる主義にせよ効果の良否を知るは時を  
待たねばならぬ繼承者三代の後になつてはじめて  
主義の確實性があらはれると云つてもよい。  
フ主義は獨裁者隱退後に確實性を見せるであら  
う。只吾人にとつては世界の赤黒二大主義を眼  
前に控えてゐて其得失如何を考察するにしても  
早急なる模倣の態度を何れの主義に對しても取  
る必要がない。

今フ黨が實際問題に對してとつた態度を考へ  
て見たい。第一の問題はフ黨の支持する勞働組  
合は他の性質の勞働組合と比較して如何な特徴  
を有するかである。

勞働組合は階級闘争を遂行する機關であり支  
配階級なりと思はれたブル階級を滅亡せしめる  
ことを目的とした。然るにフ主義は階級闘争に  
よつて私有財産を廢棄することを欲しない。ま

た凡ゆる財産を國有にすべき新社會の現出を欲  
しない。社會主義者等の唱ふるが如き生産の社  
會化を認めない。これに反し經濟的法則の自由  
伸張を認める。社會的責任を自覺し社會の寄生  
虫でなく御用商人的な暴利獲得者でない限り私  
有財産制及び資本主義を認める。のみならず社  
會にとつて有益である限り材能の自由競争を認  
める。然しながら勞働組合も亦存立せしめる。

フ主義の認める勞働組合は階級闘争の機關では  
なくして國家に對する奉仕的機關である。フ主  
義は社會の凡ゆる階級に對して奉仕と犠牲とを  
求める。勞働階級に對しても一分の奉仕と犠牲  
とを求める。資本家の資本に對して生産者の資  
本、組織的勞働の資本、技術専門家の資本を認  
め對立せしめんとする。フ主義の組織する勞働  
組合は手の勞働に基く組合のみならず知的勞働  
の組合もある。生産に従事する資本家、技術家  
精神的職業家、商人、職工、藝術家等の組合も  
ある。即ち産業勞働者の組合、農業勞働者の組  
合、自作農民の組合等も認めると云ふ。

これ等各種の組合を總合統轄せる聯合團が作られ更に聯合團の聯盟が作られてゐる。平明に云へば同一種類の職業労働者は一つの組合を作り同種の組合は更に聯合團を作り各種の組合の聯合團が更に國家的聯盟を作る。斯くて各種組合團の聯盟によつて夫々の利害關係の調節をとり一種の組合にのみ特權を與へず労働の獨占を許さないやうに出來て居ると政黨の連中は云ふ然しながらその運用の妙に至つては果して理想通りに行つてゐるや否や、歎賞する以前に實地の檢分を必要とする。

農業問題に關しては何れの國も徹底的妙策をもたぬやうである。マルクスと雖も農業を發達せしめるに如何なる技術による可きか、又技術的に發達したる農業が社會的に如何なる結果をもたらすべきかに關しては的確なる考案を與へて居らぬと云はれて居る。社會をプロとブルの二極に分ちこれが對策を論議するは世人のなす處であるが、マルクスと雖もこの二階級に就いては産業發達の大きな國に於ける特徴的な活動

的な階級はこの二階級であると云つてゐるに過ぎないので、この二階級のみが社會を構成するとは云つてゐないと云ふ。この階級的理論を農民社會に適用せんとする者は以上の二階級以外の階級が農民に存在して居ることを知らぬばならぬ。彼等は都會の農業生産者とは趣を異にする。土地の實情を知らずしてなす爲政治家、思想家の理論が農業に於て行詰るのは伊國ばかりではない。

抑も農業を代表するものには屢不在地主となつてゐる大地主、借地人、小地主、小規模の自作農、日傭の農業労働者、田舎在任の精神職業者、農作物加工の職人、全然自己の勤勞によつて生活せる者、プチ、ブルジョアとも云ふ可き中間階級、農業に必要な専門技術家として働く労働者等が居る。これ等の農業地住民に對してフ主義がなし得た實蹟を見るに、共營耕作の組織を發達せしめたことと、小地主即ち自作農を増加せしめたことと、及び養蚕業の發達を増進せしめたこととである。それ以外には妙案が

なかつたらしい。一策としては失業問題を惹起せぬやうに地主に對して強制的に土地を耕作せしめ最低賃銀をもつて永續的事業を強ひた。

各種有能の士を集めて研究所を作り各地の要求に應じて専門的立場から相談に應じ時には實地研究の結果によつて地方行政者に方策を提議するやうにしてゐる。伊語でこの専門家の集りを *Gruppo di Competenza* と稱へてゐて如何にも難有く聞えるのであるがその實際のなして居る處を見ると吾邦にある各種の試験所の延長擴大に過ぎぬ。

*Comitati delle Opere* と稱せられる事業委員會なるものが組織され一定の少額の金を勞働階級の収入に應じて課金として徴收し或る種の新事業に投資し勞働者をして事業の株主たらしめる方法をとつて居る。

その事業の種類は種々であつて投資者をして撰擇せしめる。この方法は投資事業の性質によつて成功する事もあり失敗に終ることもあるは明でありフ主義の仕事としては危険な綱渡りの

なものであるが兎に角ロマーニア (*Romagna*) のチエネナ (*Cesena*) ではその金で農産製造と煙草製造の消費組合工場を作つて成功してゐると云ふ。國家財政に於て國費の節約縮少を實行し或は裁判所の數を減じ陸海軍の高級士官の數を減じこれに反し從來課税を免れてゐた農民及び職工に課税し爲めに時には不評を招いてゐることもある。また麥粉の價額に應じてパンの價格を強制的に低減せしめ國民の常食たる穀物麥粉の關稅を廢し牛乳の價格を低減せしめ、地代家賃の制限法を撤廢すると共に地方的に家賃制限の團體組織を作つたりしてゐる。その他官營事業を半官營にしたり外國貿易を自由にしたり官營の保險會社を民營にしたり電話に關する消費組合を作つたり種々の實地方策を施してゐるのであるが吾邦のそれと比較して別段新らしきものを見出さない。

*Volunteer militia* なるものを組織し國營警察費を省いてゐる。これはフ黨員中から少年義勇兵の如く成人志願者を募つて普通の警察事務を

掌らしめてゐるのである。

紛亂せる伊國がフ黨の強力によつて整頓され平和と繁榮の使命を果すべき諸設備によつてフ黨の理想の實現を見る可き日が近いてゐるのであるが、實蹟の効果を見るは程遠き將來に屬するのである。然しながら吾人の一考に價すべきものがフ黨の諸活動中に多々あることは疑を容れざる處である。諸種の主義の長所美點を國家第一主義の下に如何に吸收し如何に實狀に適合せしめるかは斯道の研究者にとつて興味ある問題である。羅馬時代の大厦の陰に新生命を見出し再び強き國家を建設せんとするフ主義に興味を抱くは伊國の玄關を覗く者にとつては當然過ぎる程當然なことである。

### 新著紹介

## ○ Deposition of the Sedimentary Rocks

By J. E. Marr. 1929, Cambridge University Press.

3圖75(丸著)

新著紹介

著者は曰く地文學は現世の地質學にて、地質學は過去現在の地文學を綜合したものである。實に地文學はスリーディメンションの學問であるが地質學には之に加ふるに「時」といふものがある。チャレンジャー號などの海底探検によつて水成岩の沈積の状態を始めて知つた吾人はまた水成岩の成層によつて海底の沈積が如何に進行するかを知る。地質學の研究に先づ第一に必要な事は時代の考察である。化石による地質時代の確立は可なり古くから試みられた事であるが進化論の知識の加はるやうになつて多大の進歩をした。著者は以前の著書 *The Principles of Stratigraphical Geology* に述べた化石の榮枯盛衰の理を再び巧に説いてゐる。生物の内對比に有力なるはプランクトンで(シユードプランクトンを含む)此に次ぐはベンススである。ベンススはプランクトンよりも分布が局限されるけれども幼蟲がプランクトンであるものもある。生物の分布には障壁の在否も考へにおかねばならない。次に化石による帯化の問題で其有効なる場合と不利なる點を詳しく論じてゐる。

陸上の沈積は横の分布から水河、ツンドラ、ステップ、温帶森林、亞熱帶沙漠、熱帶森林の帯に分たれ其各が如何に地表に作用してゐるかを論じてゐる。水河帯に於ける水縮粘土は注目すべき事實でスエーデン語より英語化された Varve の語が用ひられてゐる。

海の沈積もベルト(帯)に分たれる。即ち belt of variables